



仲町の家
NAKACHO HOUSE

NAKACHO PRESS

春号

仲町の家だより
2022.4月発行

音まち千住の縁の拠点・仲町の家の運営には東京藝術大学の学生たちが深く関わっています。今回は長く学生担当として運営に携わり今年の3月で大学を卒業した京谷さん、昨年よりスタートした新しい展示企画に制作や企画という立場で関わってきた荒川さんに、学生担当から見た仲町の家という場所について語っていただきました。

千住の文化サロン
「仲町の家」

入場無料

WEB SITE



@NakachoHouse



@nakacho_no_ie



【オープン】

土日月祝 10:00 - 17:00

※年末年始・夏季休業あり

【アクセス】

東京都足立区千住仲町 29-1

北千住駅西口・千住大橋駅より徒歩約 10 分

仲町氷川神社向かい

【お問い合わせ】

「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」事務局

03-6806-1740 (13:00 - 18:00、火・木除く)

info@aaa-senju.com

※ 個人情報は厳重に管理し、本事業の運営およびご案内にのみ使用します。

※ 開室状況やイベント内容は社会状況等に応じて変更になる場合がございます。また、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら運営しています。事前に HP や SNS で情報を確認の上、お越しください。

アートアクセスあだち 音まち千住の縁／通称「音まち」
アートを通じた新たなコミュニケーション（縁）を生み出すことをめざす市民参加型のアートプロジェクトです。足立区千住地域を中心に、市民とアーティストが協働して、「音」をテーマにさまざまなまちなかプログラムを展開しています。

【主催】

足立区、東京藝術大学音楽学部・大学院国際芸術創造研究科、特定非営利活動法人音まち計画

特集：学生担当から見た仲町の家

1 | 京谷真鈴から見た仲町の家



私は、学生担当として3年間仲町の家に関わりました。ここで数々の景色に立ち会いましたが、中でも印象的だった2019年の出来事を記しておこうと思います。

仲町の家では、『千住・縁レジデンス』やパイロットプログラムの開催によって、アーティストの作品制作を数多く目撃することができます。私が印象的だったのは、友政麻理子さんの個展『美しい話』に合わせて開催された『ハナデンシャで行こう』の制作過程です。仲町の家では当時、『ハナ

デンシャで行こう』開催に向けて紙で簡単な花をたくさん作る作業を行っていました。イベントに使う花をただ作るだけだと思っていた私は、段々と仲町の家という空間の中で他愛もない話をしながら行う作業に心地良さを感じていきました。そしていつの間にか、ともに作業をする初めて会った相手との会話が私的なものや人の奥底にあるものに発展していき、曖昧だけれども深く、緩くとも強い、新しい繋がりを得られた感覚を抱いたのです。作った花が積み上がっていくにつれて編まれていた関係性は、まさに「縁」だったのかもしれない。

仲町の家は私にとって、人との関係性の結び方を再考できた場だったように思います。3年間で出会った全ての人に感謝を込めて、これからも仲町の家には様々な人が行き交い、うごめきながら発展していくことを願っています。



京谷真鈴

東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科を今年3月に卒業。それまで「音まち千住の縁」の学生担当を務めていた。この春から社会人。

撮影：和田恵美可

2: 荒川千優からみた仲町の家



藝大生の表現と、街や人々を繋ぎたい。そんな思いを胸に立ち上げた NAKACHO ART SERIES も、ついに6つ目の展示を終えました。約1年間仲町の家に足を運んでくださった皆様、本当にありがとうございました。美術館や音楽ホールとは違う、訪れる人によって違った時間が流れ、人々の生活に近い空気を持った仲町の家での展示は、作品制作でも、人に展示を知ってもらう上でも、困難が多かったのを思い出します。展示ごとに違った仲町を家の魅力を知り、それに向き合う中でたくさ

ん悩みました。

また、お客さんの反応が直に伝わってくるのもこのシリーズならではの。毎回、作品を見た直後のお客さんから感想をいただいたりお話ししたりするのは、企画者として学びが多く、少し緊張もする時間でした。藝大生が何かやってる場所、として見てもらえるようになり、次作への期待の音が聞こえるようになったことがとても嬉しいです。この場所での表現に全力で取り組んだ1年でした。6組の若い作家の表現を、仲町の家にくる人々に届けられ、藝大と千住の街の接点を少しでも生むことができたら幸いです。



荒川千優

東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科3年。アートプロデュース / マネジメントを学ぶ。NAKACHO ART SERIES はじめ、千住の街中での実践に取り組んでいる。

学生担当が企画した「NAKACHO ART SERIES」

様々な人が行き交うこの場が、藝大の学生の作品や表現を発表する場になれば…

という学生担当の思いにより、仲町の家パイロットプログラムとして企画された展示シリーズ。

コロナ禍の日常の中で、アートと出会う少しのきっかけとなれば…という学生たちの思いが込められています。

- #1 中岡尚子《エオリアン・ダンサー》
2021年2月11日(木・祝)～4月12日(月)
- #2 熊谷優里《あおば・あうと・おうと・おとうと・ぼとう・げし》
2021年5月1日(土)～6月21日(月)
- #3 中岡尚子 / 堀江幹 / 伊藤明日奈《2番目の風を右に曲がって》
2021年7月10日(土)～8月23日(月)
- #4 福澤龍一《鶴跡》
2021年9月4日(土)～9月27日(月)
- #5 池田翔 / 松吉菜々子《雪わたり》
2022年1月15日(土)～2月14日(月)
- #6 稲垣千佳《rhythmos》
2022年3月5日(土)～3月28日(月)

NAKACHO ART SERIES

主催：東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科熊倉純子研究室

詳しくは <https://nakachoartseries20.wixsite.com/nas2021>



--- PICK UP! ---

2022年春の 仲町の家パイロットプログラム

「ダンプリング： 具が皮に包まれたなら」



ダンプリング：具が皮に包まれたなら

Dumpling: If the filling is wrapped in a skin

人間の発明品として、古くから世界中で食されている「Dumpling(ダンプリング)」。餃子のほかにも、団子やニョッキなど、さまざまな種類があるが、共通点をあげるとしたら、「具」が「皮」に「包まれた」物体であることだろう。現代において、「具」や「皮」、「包む」という行為はなにを指し、私たちにどのような味わいを与えてくれるのだろうか。

これまで、さまざまな文化や芸術をやさしく包み込んできた「仲町の家」という「皮」のなかには、今回どんな「具」が包まれているのか。日本と香港、中国出身の東京藝術大学の学生によるダンプリングパーティーをぜひお楽しみください。

賞味期限：2022年4月16日(土)～5月2日(月)

10:00 - 17:00 土・日・月・祝 OPEN

産地：仲町の家(東京都足立区千住仲町29-1)

値段：無料

生産者(主催)：東京藝術大学美術研究科 GAP・先端芸術表現専攻学生有志

(太田紗世、佐藤桃子、鈴木希果、陳一銳、彭愔、水野渚)

お問い合わせ：instagram @the_dumpling_show

(※QRコードからもアクセス頂けます。)



「仲町の家パイロットプログラム」は、さまざまな方々や団体と共に家の活用法や可能性を探っていく「アートアクセスあだち 音まち千住の縁 拠点形成事業 パイロットプログラム」の一環で実施しています。